2017年
日本イエナプラン教育協会 第2回全国大会

報告書

2017年7月29日（土）10：00～16：30

＠大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）

一般社団法人日本イエナプラン教育協会

【 目 次 】

大会テーマ：「探究する学びに向かって

～異年齢の学びとワールドオリエンテーションの視点から～」

１．開催にあたって　（主催者より）

一般社団法人日本イエナプラン教育協会 代表　　久保　礼子
第２回全国大会事務局　関西（大阪）支部　　濵　　大輔

２．大会タイムテーブル

３．実践発表

⑴ 中 嶋　尊 弘 さん　（東京都大島町立つつじ小学校教諭）

⑵ 高 原　麗 奈 さん　（箕面こどもの森学園スタッフ）

⑶ 本 川　良　さん　（宮城県石巻市立雄勝小学校教諭）

⑷ 山 地　芽 衣 さん　（協会会員）

４．参加者の振り返りから

５．総会資料

⑴ ２０１６年度活動報告

⑵ ２０１６年度会計報告

⑶ ２０１７年度活動予定

第２回全国大会開催にあたって

一般社団法人日本イエナプラン教育協会
代表　　久保　礼子

2017 年 7 月 29 日（土）、大阪にて、日本イエナプラン教育協会第２回全国大会を開催することができました。昨年度の全国大会の終わりに「次回は大阪で！」と大阪支部のメンバーが手を上げて下さったことがきっかけで、大阪での開催が実現しました。前回に比べて西日本の方にも多く参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。ありがとうございました。

さて、今回のテーマは「異年齢の学びとワールドオリエンテーションの視点から」というものでした。いかがでしたでしょうか。ワールドオリエンテーションに関しては、イエナプラン教育が日本に紹介され始めた当初から、とても高い関心を集めてきました。ちょうど日本では「総合的な学習の時間」がかかえる課題が見えはじめていた時期でもあり、ワールドオリエンテーションの内容や方法を、より具体的に知りたいという声が多くありました。しかし、オランダでのワールドオリエンテーションのテーマや実践内容を文献・資料から知り参考にすることはできても、ワールドオリエンテーションのあり方そのものが、子どもの問いからスタートし、本当の意味で子ども自身が進めていくこと、教科横断的な時間となること等から、学校全体のカリキュラムとの絡みがハードルとなり、中々実践に及ばなかったという経緯があります。

そのハードルをひとつ越えての今回の実践報告でした。校内研究テーマとして、学校全体でワールドオリエンテーションに取り組んでいる東京都大島町立つつじ小学校の実践、フレネ教育の考え方と方法に基づくオルタナティブスクールとして 13 年の実績を持ち、ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）に取り組む箕面こどもの森学園中学部の３年間にわたるワールドオリエンテーションの実践、東日本大震災の復興の中で、へき地小規模校を強みととらえ、異年齢での学び・探究的学びに地域と連携して取り組んでいる石巻市立雄勝小学校の実践、すべて大変興味深く、大変意義深いものでした。貴重な実践を報告して下さった中嶋さん、高原さん、本川さんに、心から感謝いたします。

今回のタイムスケジュールでは、昨年度の反省を受けて、質疑の時間やリフレクションの時間をたっぷり取ることを心がけました。参加者の方々の意見交換の場面を多く持ち、対話をすることで、参加された方がご自身の思いや考えをより深めることができれば、という思いでした。会場のあちこちで熱心に会話がなされ、情報交換も活発だった様子で、良かったのではないかと思っています。一人での初めての参加だったけれど、いろんな方と安心して話ができて良かったという声や、難しいと思っていたワールドオリエンテーションだったが、やってみようと思ったというような声を聞けたことは、大きな成果だったと思います。

今年度の協会主催のイベントは、この全国大会と、すでに１月に行われた【リヒテルズ直子氏×苫野一徳氏とイチから考える公教育】のみの予定です。しかし現在、2016 年度活動報告でも上げさせていただいたように、各支部での学習会が盛んになってきていることが、協会の活動の大きな特徴だと思っています。学習会は「20 の原則」を読んだり、DVD を見て討議したり、時々のテーマに沿って話したり、そ

れぞれの支部独自のやり方で独自の内容で進められています。こうした支部独自の参加者が主になった学習会を広げていけていることが、私たち日本イエナプラン教育協会の活動そのもののように思えます。学習会の場で、参加者が自分自身を振り返り、何かに気づき、変革を求め、次にチャレンジしようとする、この参加者のエネルギーによって営まれていく学び――これこそ私たちが学校の教室に育てたいと思っている学びそのものなのではないでしょうか。その一方で、それらは、独りよがりになったり、閉塞状態になったり、閉鎖的なユートピアにならないようにすることも大切なことです。そう考えると、全国大会の役割・意義は益々重要になってきていると言えます。昨年に引き続き、今年の全国大会でも、大変貴重な実践報告をいただきました。そしてそこで参加者同士に多くの対話が生まれました。このことは、私たちに新たな気づきをもたらし、これからの皆様それぞれの場所における活動と協会の活動とに、多くの示唆とエネルギーを与えてくれたものと感じています。

また今年度は、3ヶ月間にわたる『オランダ・イエナプラン教育専門教員養成研修』が初めて実施（9月17日～12月8日）されます。　2019年開校予定の佐久穂イエナプランスクール（仮名称）の設立準備への支援も引き続き行っていきます。

協会主催の活動、各支部での活動、イエナプラン教育を推進する様々な活動への協力・支援、こうしたすべての取り組みがつながりあうことで、日本の教育環境全体の静かな変革に通じていくことを信じ、心から願っています。

最後になりましたが、大阪開催に向け、企画、会場の手配準備、広報等にお骨折りいただいた大阪支部のメンバーである、濱さん、河野さん、東稔さんに心よりお礼を申し上げます。

（2017年8月末日）

個と協働　―お礼に添えて―

第２回全国大会事務局
関西（大阪）支部　　濵 大輔

近隣の方も遠方の方も、今年はこの大阪の地にお集まり頂きまして、本当にありがとうございました。大阪の教育現場は、昨今大変厳しい状況にあるとの声が聞かれます。「イエナプラン教育はビジョン」とは重々承知しつつも、「実際にどう実践に生かせるの？」と思われていた方も多かったでしょう。そんな中、熱いハートで具体的なチャレンジを続ける皆さんの発表を聞き、わたしにも「ぼくならこうしよう！」というイメージが広がっていきました。この「ぼくなら」というのは個の学びです。しかし、それはお集まり頂いた皆さんとの対話あってこそのもの。イエナプラン教育における個と協働の関係についても、大変示唆的な学びでした。

今回、企画・運営を共にした関西支部、日本イエナプラン教育協会の皆さまにも、改めて感謝申し上げます。

わたしたちは１人では学ぶことができません。これからもぜひ共に学んでいきましょう！

２．大会タイムテーブル

9:40	開場・受付
9:50	総　会
10:00	開　会
10:10	実践発表　(1)
	中 嶋　尊 弘 さん（東京都大島町立つつじ小学校教諭）
10:40	質問づくりのためのグループトーク
10:50	実践発表（２）
	高 原　麗 奈 さん（箕面こどもの森学園スタッフ）
11:20	質問づくりのためのグループトーク
11:30	休　憩　（質問回収）
11:40	質疑応答
12:10	遊　び　（地域交流）
12:20	昼　食
13:40	山地芽衣さんのオランダ生活報告
13:50	実践発表（３）
	本 川　良　さん（宮城県石巻市立雄勝小学校教諭）
14:20	質問づくりのためのグループトーク
14:30	休　憩　（質問回収）
14:40	質疑応答
15:10	リフレクション
16:20	挨拶＆諸連絡
16:30	閉　会

３．実践発表

(1) 中 嶋　尊 弘 さん　（東京都大島町立つつじ小学校教諭）

ワールドオリエンテーション（以下 WO）に学校全体で取り組んでいるつつじ小学校。そこに至るまでの経緯をお話しくださいました。

最初は、つつじ小学校でも「新しい考え」に対する抵抗感が少なからずあったそうです。中嶋先生自身にも「青山先生だからできる」「オランダでできても日本でできるのか？」という思いがあったと言います。しかし、１年に渡る青山先生との対話の積み重ねや学級の学力差に悩む自分と向き合い、自身の授業を振り返った結果、イエナプラン教育の必要性を感じて実践に一歩踏み出せたそうです。

まずは、できるところからチャレンジを始めてみました。例えば異学年での算数の授業、サークル対話などです。

数名の仲間たちと対話を重ねながら小さな実践を繰り返したことで、ついに、総合的な学習の時間と生活科の校内研究で、イエナプラン教育の要と言われる WO に取り組むことが決まりました。

そこで、つつじ小学校では、他の職員の方々も巻き込んで一日研修を行ったそうです。イエナプラン教育の DVD を見て疑問を出し合ったり、皆で実践を深めるために本を読んで A4 用紙１枚分のレポートを作成して語り合ったりしました。こうした研修を続け、学期の始めに「テーマ決め会議」を行い、どのテーマをどのように実践していくかを決めていきました。そして、日本でできそうな課題集「つつじ版　WO 課題集」が完成したそうです。

発表では、これまで取り組んできたユニークなテーマの中から、「秋の校外学習コンテスト」をご紹介いただきました。遠足の行き先を子どもたち自身が選び調べ、それを全体に発表し、どこへ行くかを投票で決めるというものでした。

また、WO を進めていく過程で、職場に様々な変化がありました。まずは、会議です。WO を実践する中で出てくる疑問をみんなが気軽に相談できるように、スカイプ会議や小グループ会議、希望者だけで集う「ネコ cafe」などを開催しました。そこは少しずつ、問いを出し尽くせる場となっていき、やがて教員同士が主体的に「教育観」や「授業観」を語り合う場にもなり、結果的に WO の取り組みを支えていました。さらに、子どもへの接し方も変わったそうです。教員として子どもたちに寄り添って、共に学ぶ姿勢をつかみ始めているということでした。そして、子どもたちも徐々に自ら学ぶ人へと成長していきました。特に上級生の子たちのリーダーとしての自覚が芽生え始め、下級生に教えたり、支えたりする姿がよく見られるようになりました。それは、次に続く下級生にとって良い習慣を学ぶ機会になっているそうです。

中嶋さんのお話の中で終始伝わってきたものは、教育に対する純粋さと情熱です。新しい教育方法を知った時、多くの人はこれまでの慣習が縛りとなり、新しい一歩を踏み出すことが難しいものです。しかし、中嶋さんは、自らこれまでの教師生活と真摯に向き合い、抱えてきた課題の振り返りを通して、「子

どもたち一人ひとりの個性や進み具合に合わせたオーダーメードの教育」を目指し始めました。そして、「その実現のために必要なヒントがイエナプラン教育にはある」と仰っていました。今ある課題を素直に受け止め、子どもたちのより良い成長のため果敢に挑戦してきた中嶋さんの言葉には、強い説得力と情熱がありました。

そして、中嶋さんの発表を聞いて最も心に残ったことは「すべての始まりは対話から」ということです。今では学校全体で WO に取り組んでいるつつじ小学校ですが、最初は理解者も少なく、反発の声もありました。しかし、それを少しずつ変えてこられたのは「一対一の対話」だったそうです。異なる意見こそ大切にして粘り強く対話をし続けたことで、何でも語り合える仲間をつくり、その輪を広げていくことができたのです。そんな中嶋さんの話を聞いて、多くの参加者から「よし、自分も対話から始めよう」という声が聞こえてきました。

中嶋さんはこれからチャレンジしたいことも伝えてくださいました。まずは、「働き方改革」です。仕事も家庭もプライベートも充実させるために、長時間がむしゃらに働くのではなく、決められた時間内で成果を出すということを意識して、毎日 17 時退勤を目指すということです。また、今後は WO に対する保護者理解を高めていくために HP や SNS を活用し、情報開示に注力していきたいそうです。そして、これからも対話を大切しながら職員室をチームとして築き上げていきたいと決意されていました。

最後に、中嶋さんの発表中、最前列に座り、真剣な眼差しで聞いていた青山先生の姿が重なったことで、人と人とがつながり文化が継承されていく過程を目の当たりにできたこともまた印象的でした。

≪中嶋さん作成配布資料≫

１、WO が校内研究になった経緯～どうして、イエナプランと銘打って校内研究ができたのか～

①研修授業

年間２０回程度の個人研究の発表の場。そこで、当時研究主任の青山がイエナプランを紹介。つつじ小はこの時に、初めて「イエナプラン教育」と出会う。

②１年にわたる対話

「新しい考え」に対する公立学校のアレルギー勃発。当時のつつじ小学校には全く浸透せず。思い返すと、私自身も青山と１年間に及ぶ対話の末、実践するに至っている。

③数名だけの実践

異学年合同の算数の授業。自立学習。サークル対話。まずは、公立学校でできることを考えながら数名の教員で小さく実践。

④校内研究へ

大きな研究が一区切りの年。総合と生活の研究を提案しよう。モデルとして、イエナプラン教育のワールドオリエンテーションがとても興味深いと提案しよう！そして、やってみよう！

２、これまで取り組んできたユニークなテーマ

①こんな実践しています（昨年度のもの）

上学年	下学年
	6月　環境 「磯の生き物」
9月　空間 「旅名人」	9月　空間 「秋の校外学習コンテスト」
12月　作ること・使うこと 「T-1グランプリ」	12月　作ること・使うこと 「秋祭り」
1月　共に生きる 「無人島クエスト」	1月　めぐる1年 「私の成長～ホップステップジャンプ～」

②こうやってテーマを作り出してきました

・昨年度（2016 年度）夏に一日研修を行い、日本でできそうな課題集「つつじ版 WO 課題集」を作る。オランダのテーマ例を参考に７つの領域を網羅した。

・学期の始めに、「テーマ決め会議」を行う。どのテーマをどのように実践するかを決めていく。

３、研究を通じて、何が変わったか。

①会議が変わった（変えた）

新しい取り組みに不安を感じている先生方がいるからこそ「つぶやきを話せる会議」を目指して研究に関する会議の在り方を徹底的に変えていった。

・スカイプ会議・・講師や第三者の意見を手軽に取り入れられる。決定的に重要

・小グループ会議・・研究全体会など意見が言いにくい場面に、必ず小グループでの討議時間をとる。

・ネコ café・・研究開始当初、隔週で「研究への不安・不満」をコーヒーを飲みながら語り合う場。

この他にも、隔週で火曜日の５，６時間目の WO 後に「研究日」として、分科会を設定。

この一連の改革から感じることは。

「学校は会議から変えるべき」ということ。「理想的な会議とは何か」と文献から学び、会議の在り方を変えることにより教員同士のコミュニケーションが圧倒的に増加する。「つぶやき」「不満」「不安」と向き合う対話を重ねる中で合意形成が行われる。「浮揚面」を見出すチャレンジの一歩は会議の変革と実感。　　（吉田新一郎『会議の技法』　ちょんせいこ『元気になる会議』参照）

②教師の子どもへの接し方が変わった

問い、学び方、発表の方法を子ども中心に考える WO。教師は一年間「アドバイザー」としての在り方に悩みながら、放任ではなく寄り添って、共に悩み考える姿勢をつかみつつある。

③自ら学ぶ児童へと徐々に成長

特に、最上学年がリーダーとして下学年をリードして学ぶという自覚が飛躍的に成長。また、その姿を見た下学年の中に「来年は自分がしっかり学習をリードする」という意識が芽生えた。

４、チャレンジしたいこと　～新しいチャレンジ、継続したいチャレンジ～

①働き方改革

「Quick＆Dirty」（小杉俊哉『２％のエース思考』）という考え方。雑務と言われる仕事は１０割ではなく、7,8 割程度の出来で良しとする。仕事も家庭もプライベートも充実させるという意識。よりクリエイティブなことに時間を費やすためにも効率的に仕事をこなし、１７時帰りを目指す。

②保護者理解の促進

まずは、教職員と子どもがどれだけ熱を入れて WO に取り組んでいるかを知ってもらう。SHS などを使用して随時伝わる形を目指す。いずれは、WO の協力者になってもらいたい。

③職員室をチームに

すべての始まりは「一対一の対話」から。異なる意見も批判的な意見も受け止め、粘り強く対話する。人を変える前にまずは、そんな自分に変わること。子どもを変えようとする前に、大人が変わること。「チームつつじ」の研究のベースは対話であり、これからも対話をし続ける。

(2) 高 原　麗 奈 さん　　（箕面こどもの森学園スタッフ※）

※学園では、教員のことをスタッフと呼びます。

今回、高原さんは箕面こどもの森学園の中学部の実践を具体的に紹介してくださいました。学園には、『民主的で共生的な生き方を身につけた自立的な人間を育む』というビジョンがあります。このビジョンとイエナプラン教育のビジョンは親和性が高く、学園では特に『テーマ学習』の分野で、イエナプラン教育の『ワールドオリエンテーション』を参考にカリキュラムを作っています。

テーマ学習におけるスタッフの関わり方は、最初の段階が一番大きいそうです。学期が始まる前に、担当スタッフチームで、『テーマの目標・本質』などをとことん話し合います。仮説立て・テーマ立ての段階に入る時には、学びのハンドルは殆ど子どもたちが握っていて、スタッフは、子どもたちが困った時にファシリテーションをするような形で関わっていくそうです。 スタッフは、子どもたちが少しでも興味関心を持てる環境設定をする、という役割を担っています。その具体的な取り組みの一部をご紹介します。

1学期の『気候変動』のテーマ学習では、最初はオリエンテーションという形で『世界で何が起こっているのか』を全体に紹介し、同時に連想ゲームを行いました。自分たちの身の回りから『気候変動』に関する事象を繋げていくということをしたそうです。ここまでは、小学部の高学年も中学部と一緒に取り組んだそうです。この先は、発達段階に沿った学びを進めるために、各クラスに分かれて活動していきました。中学部では『気候変動』の映像を見てキーワードや疑問を出し合いながら、自分の興味・関心がある分野を絞っていきます。イエナプラン教育でも『子どもたちから生まれた問いを集める』ということをしていますが、そこからヒントを得た取り組みだそうです。

また、『気候変動』をより自分事として捉えられるように、例えば地域で活動している環境団体の方をお呼びしたり、COPなど国連の会議に市民団体として参加している方から、会議の様子を伝えてもらったりしたそうです。ちょうどアメリカのトランプ大統領がパリ協定から離脱することを表明したので、時事問題からも『気候変動』について考える時間を持ちました。このような取り組みの後、いよいよそれぞれのテーマに落とし込み学びを進めます。子どもたちが選んだテーマは多様だったそうです。パソコンで調べたり、本を見たり、学校でアンケートをとったり、実験をしたり、メールや電話で企業や団体に問い合わせたり、という活動を通して、子どもたちは、社会のあり方や、企業の取り組みに対する姿勢も体感していったそうです。中学部では、調べたことを一度1600文字のレポートにもします。文章化することで、考えを深め、抽象的な概念を言葉にする練習をするためです。

こうした学びを最後に振り返る時には、クラスメイトからもコメントをもらいますが、良かったことだけではなく、「もっとこうした方が良い」ということも自然に出し合えているそうです。高原さんは、「対話の場を多く持っているからなのか、批判的な意見、多角的な意見をさらりと言う

子が多いという印象を持っている。」と言います。『ワールドオリエンテーション』を通して、探究する学び、批判的・多角的に捉える視点が育っている、と感じてもいるそうです。大人の考える枠を遥かに超えていく子どもの姿から、「子どもたちが、大人よりももっと豊かなものを持っているという可能性を常に考えたい。子どもたちの多様性を大事にしたい。」と語ってくださいました。と同時に、課題もあるそうです。

・本物に出会う環境設定、リソース探しの難しさ
・探究や発見のプロセスの信憑性をスタッフがカバーしきれない場合もある
・個の学びをもっと全体の学びへ広げたい

ということです。オランダのイエナプラン校のように、実践を積み重ねていくことで得られるノウハウや知識、学びの整理をこれからしていくことが大切だと感じているそうです。

最後に、高原さんが子どもたちと、また実践と向き合う時に、心に留めている言葉をご紹介します。イエナプラン教育創始者、ペーター・ペーターゼンのものです。こうした実践を展開し、真摯に実践を積み重ねていく柱には何があるのか。とても考えさせられた発表でした。

「将来どんな政治的、経済的な状況が生じるか、私たちはだれも知らない。未来は、人々の不満、利益追求、闘争、そして今の私たちには想像のできない新たな経済的、政治的、社会的状況によってきまるだろう。けれども、たった一つ確信を持って言えることがある。すべての厳しく険しい問題は、問題に取り組んでいこうとする人々がいて、彼らにその問題を乗り越えるだけの能力と覚悟があれば、解決されるだろう、ということを。この人たちは、親切で、友好的で、互いに尊重する心を持ち、人を助ける心構えができており、自分に与えられた課題を一生懸命やろうとする意志を持ち、人の犠牲になる覚悟があり、真摯で、うそがなく、自己中心的でない人々でなければならない。そして、その人々の中に、不平を述べることなく、ほかの人よりもより一層働く覚悟のあるものがいなくてはならないだろう。」ペーター・ペーターゼン

«高原さん作成配布資料»

ワールドオリエンテーションから生まれる学び

2017年7月29日

NPO法人箕面こどもの森学園
高原麗奈

箕面こどもの森学園

設立年：2004年

生徒人数：51名（小学部・中学部）

クラス編成：低学年・高学年・中学部

理念
- 民主的で共生的な生き方を身につけた自立した人間を育む

特色
- 仕事(活動)の教育
- 市民性(シチズンシップ)の教育
- 持続可能な開発のための教育(ESD)

目標
- 自分を表現する
- 自律して学習する
- チャレンジする
- 協力して活動する
- 多角的に考える

イエナプラン　ワールドオリエンテーション

- 本物・生きた学び
- 探求する学び
- システムつながり
- 答えのない問い

イエナプラン　ワールドオリエンテーション　7つのステップ

刺激をする ➡ 問いかけ ➡ 計画する ➡ 経験発見探求 ➡ 発表する ➡ 記録保管 ➡ 中核目標/学習経験

こどもの森（中学部）　ワールドオリエンテーション

刺激をする ➡ 知る体感 ➡ 仮説立て・テーマ決め ➡ 発見探求 ➡ 文章にする ➡ 発表する ➡ ふりかえり ➡ 記録保管

学習テーマ

	1学期	2学期	3学期
2015年	私の物語	食	防災
2016年	庭づくり	差別	メディア リテラシー
2017年	気候変動	平和と歴史	私の将来

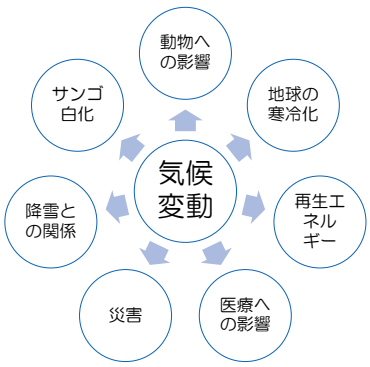
こどもの森（中学部）

気候変動～2017年度1学期～

刺激をする → 知る 体感 → 仮説立て・テーマ決め → 発見 探求 → 文章にする → 発表する → ふりかえり → 記録 保管

こどもの森（中学部）

子どもたちのテーマ



子どもたちの取り組み ～発見・探求～

- アンケート
- 企業・団体へ問い合わせる
- 図書館で資料を集める
- 実験する

ワールドオリエンテーションから生まれる学び

- 主体的な学び
- 多角的・批判的な視点
- 多様さ
- 学びあう（協働）
- 社会とのつながり

これからの課題

- 本物に出あう環境設定
- 探求・発見のプロセス
- 個から全体の学びへ

(3) 本 川　良　さん　　（宮城県石巻市立雄勝小学校教諭）

雄勝小学校は東日本大震災により甚大な被害を受けた石巻市沿岸部にあり、津波で全壊した学校の１つです。壊滅的な被害を受け、人口が1/4に減少した雄勝地区ですが、「地域に学校を残したい」という住民の願いと運動により、２０１７年度、小・中併設校として新たに開校することになりました。これまで旧雄勝小学校をはじめ、沿岸の小学校で勤務してこられた本川さんは、「今までお世話になった雄勝地区のためにできることをしたい。」と、1 年後に雄勝小学校と統合を控えた大須小学校へ、教務主任として勤務することになりました。

本川さんは、震災以前より『学び合い』を実践され、震災後『信頼ベースの学級ファシリテーション』や『イエナプラン教育』に出会います。学校教育目標である、**【自ら考え、共に歩み、未来を拓く子どもの育成】**を本気で追及していけば、イエナプラン教育になっていくのではないかと考え、まずは会議をより対話しやすいものへと変えることに挑戦。「何のためにするのか」「どんな学校にしたいのか」を話し合いお互いに共有する場をつくり、みんなで相談しながら、お互いの強みを発揮できるようこころがけました。思った通りに行かないこともありましたが、「1 人ではできないからみんなでやっていく、それには時間がかかる」と肝に命じ、「学校教育目標の具現化」という、当たり前のことを当たり前に追求するプロセスをつくっていきました。

１．思いを持つ、自覚する、強く願う、妄想する（イメージする）
２．やってみる、振り返る、改善しつつ行動し続ける
３．対話する、目的を共有しみんなで一緒にやる
４．発信する、仲間を募る
５．次につなげる
６．このサイクルを回す

以上を、「私たちには力がある」と信じ、毎日毎日ひたすら繰り返したことは、学校教育目標を目指す『教師のＷＯ』となりました。子どもたち同士も地域の方々と一緒に関わり合い、学び合いながら試行錯誤を続けた 1 年後、新生「雄勝小・中学校」が開校。震災後「地域に学校を残したい」という住民の願いと運動が身を結びました。本川さんは、高齢化や人口流出が加速している雄勝地区にあって、「雄勝の復興を通じて豊かな社会をつくっていきたい」と考えたそうです。そのために、地域と学校にとって「自立と共生」は必然と捉え、生活・総合の授業を、地元の複合体験施設『モリウミアス』と連携して行う準備と計画を進めてきました。本川さんは、開校前に重ねてきた学校間の担当者同士での話し合いで、すでにこの計画については合意が形成されていると思っていました。ところが、新しく仲間となった先生方との認識の相違を感じ，計画の練り直しが必要になりました。残念な思いを抱えつつも、「先生たちがやりたいことから始めないと前に進めない。」と一端計画を棚上げし、再度みんなで検討し直すことに。目指すところを発信しながら、対話し、模索し続けた結果、モリウミアスを含めた地域の人々との交流の中で、教職員みんなが相談して実践しながら新しい計画を立て、よりよい形をつくれるよう

になってきたそうです。スライドに映る心から楽しそうな大人の表情が印象的でした。今後は、“雄勝らしさ”という価値観が生まれることと、子どもたち自身が身近なコミュニティを対話のあるものにすべく、教師たちがファシリテーターとなり活躍してくれることを願っているそうです。

最後に、本川さんは、以下の言葉で発表を締めくくりました。

「人を変えようと思わないこと、自分が変わらないと人は変わっていかない。みんなが「自分が変わりたい」と思わない限り変わっていかない。」「それぞれが生きたいように生きて、尊重しあえるような地域になっていくためには、今何をすればよいか考える。」「雄勝小学校での日々の取組み（※１）が子どもたちや私たちの次につながると信じ、これからも皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。」

お話しの中に何度も登場した言葉「常に～し続ける」が、大会後も私の耳に常に残っています。

※１　雄勝小学校の日々の様子は、フェイスブックで公開されています。
https://www.facebook.com/ogatusyou/

«本川さん作成配布資料»

「自立と共生」イエナプランの理念を公立小学校に
～雄勝小学校の「今ここ」～

宮城県石巻市立雄勝小学校
教務主任・地域連携担当
教諭　　本　川　　良

■雄勝小学校の情報はこちらから，毎日更新
https://www.facebook.com/ogatusyou/

０　私とイエナプラン教育

○生活綴り方教育
○『学び合い』との出会い（「石ころ帽子をかぶった子」と私の失敗）
○東日本大震災
○プロジェクト結
○「信頼ベースの学級ファシリテーション」
○イエナプラン教育
○現在の私
『学び合い』×「信頼ベース」＝「私なりのイエナプラン教育（自立と共生」)」

１　雄勝小学校について

○『学び合い』に舵を切ったのは前雄勝小時代がきっかけ
○東日本大震災で被災し，壊滅的被害を受けた雄勝地区
○多くの住民が町外の仮設住宅へ，雄勝小学校も所在地から３０㎞離れた場所に仮設校舎
○「地域に学校を残したい」という住民の願いと運動から，新設校として再建されることに
○Ｈ２９年４月，２小学校・２中学校が統合され小中併設新生「雄勝小・中学校」として開校。（全校小学生２０名，中学生２１名）

「自立と共生」は学校・地域の必然

２「自立と共生」

○自立とは、「自己中心性からの脱却」（アドラー）
○「自立とは依存先の分散なのだ」（湯浅誠）
○他者と共に生きていく姿勢
○一人一人に「わたしには能力がある」「私は他者の役に立てている」というベース

３　「自立と共生」は地域・学校の課題
～必然からのアプローチ～

（１）雄勝地区
○漁村地区で，震災前から人口減少，高齢化が進んでいた地区
○雄勝法印神楽，雄勝石（硯）ホタテ，アワビ，ウニ…。地域愛は強い
○震災で，人口流出がさらに加速
○人口が１／４に　高齢化率も高い
○外部から雄勝・石巻に入ってくれる方々と雄勝を愛する方々との出会い
○「雄勝の復興を通じて，豊かな社会を」
ex.プロジェクト結 http://project-yui.org/
ex.モリウミアス　http://moriumius.jp/
ex.キッズメディアステーション
http://kodomokisha.net/kodomoshinbun/index.html
○学校は地域の希望，子どもは「雄勝の宝」

（２）雄勝小学校
○学校教育目標**「自ら考え，共に歩み，未来を拓く子どもの育成」**（小中９年間を見据えた学校教育目標）
○「地域と共にある学校」
○旧雄勝町に残った唯一の学校
○へき地小規模小中併設
○地域の願いと，学校教育目標は同じ，という認識
○「生活・総合」を核に新しい学校づくりを

４　教務主任としての基本的なスタンス

（１）「学校教育目標」の具現化を目指す
○学校教育目標を（実質）校内研究化し，校内研究を対話ベースの楽しいものにする
○どんな学校にしたいの？なるといいの？
○理想の学校イメージを話す，話し合う，共有する場をつくる
○学校教育目標と日常の事実とつなげ，やれていることをフィードバックする，確かめ合う場をつくる
○先生方一人一人の強みを活かす

（２）「一人一人は唯一無二」「誰にでも力がある」～ファシリテーションの考え方で～
○「ファシリテーション６つのスキル」
（インストラクション，クエスチョン，アセスメント，フォーメーション，グラフィック＆ソフィニケーション，プログラムデザイン）（ちょんせいこ(株)ひとまち）
○大人も子どもも同じ，という認識を体験と対話を通してゆっくり広げる

（３）学校は社会に出て行くための練習の場「でもある」
○「教室で起こることは職員室でも起こる」「職員室で起こることは教室でも起こる」だから，職員室を良好なコミュニケーションのある場に，学び合う場に

（４）「立場」を生かす
○学校教育目標を「忘れない」「覚えている」
○担任の先生の願いを聞く，要望に応える
○つなぐ（ひと，もの，こと，学び…）
○教科の枠組みを超えつながる学びを促進する環境を整える
○研究主任を始め，あらゆる人と協働する。
○外に情報発信する

（５）面白がる，「楽しい」を大事にする
○良好なコミュニケーションがあれば，大概のことは楽しめる

○ピンチは楽しい？になる（助けてくれる他者がいる）

（６）旗印を立てつつ，追い風を待つ，掴む
○向かい風を敢えて選んでいた過去…
○追い風を待つ，見付ける，掴む
ex.「みやぎの協働教育」
https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/617584.pdf

５　雄勝小学校の生活・総合「今ここ」
（１）会議と校内研修を「対話」の場に
・小中職員会議でペアコミュニケーション
・会議を対話の場に，学びの場に
→「楽しい」を味わう
→授業に降りていく
（２）子どもも大人も「異年齢の探求的な学び」を～新設校のスタート期だからこそ～
○小中併設へき地小規模校の強みは何か？

大人も子どもも多様な人に触れ，学び合う体験を共有する。対話で楽しさの共有を図る。それを繰り返す。そういう場を地域でも職員室でも教室でもつくる，つくろうとする。

６　モリウミアス（http://moriumius.jp/）と連携した生活・総合的な学習「ふるさと雄勝をみつめよう」　～子どもの総合学習，大人の総合学習～
（１）スタッフと目標共有の場をもつ

（２）対話をする，対話を繰り返す

（３）「ほんもの」体験から学ぶ

【海釣り】

【釣った魚を調理】

【森探検】

【雄勝硯職人と制作活動】

（４）継続する，つなげる
（５）「持続性，多様性（異年齢），地域性」を大切にする（with　モリウミアス）

７　「公立のイエナプラン校化を目指したい」という私の願い
○「震災を経験した宮城県・石巻地区の子ども，学校。「元に戻る」のではなく，一歩前に。『震災があったからこそ』と思えるようなうな学校づくりを進めたい。
○甚大な被害を受け，多くの方々や地域・団体から支援も受けた。その恩返しが少しできたらいい。
○「生きてここにいること」「学校に来ることができ，一緒に学べることが何より大切」を実感した震災直後。そこを忘れたくない。
○それには「学校教育目標の具現化」という当たり前のことを当たり前に追求するプロセスを愚直につくる。
○どの学校にもある「学校教育目標」を目指し，みんなで対話し，楽しみながら前に進むプロセスをつくる。
○みんなが本当に「やる」「やりたい」と決め思いを共有し，それぞれの強みを発揮できる場ができたら，案外何でもできるものだと気付く。他者の力を信じる。
○そのための「場づくり」をしていきたい。
○皆さんの力も貸していただき，みんなで一緒に前に進みたい。

(4) 山 地　芽 衣　さん　　（協会会員）

山地さんは、オランダに留学し、現地の教員養成やイエナプラン教育を学んできました。今回は、オランダの WO がどのように行われているのか、どのような考え方で活動されているのか、たくさんの画像と映像と共に紹介してくださいました。

映像では、水や火や土などの自然を、子どもたちが楽器で表現する姿を見ました。笑顔で音を奏でるその姿は本当に楽しそうで、学びを楽しむ姿に国境など無いことを実感させてくれました。

山地さんは、ワールドオリエンテーションは教員自身が楽しまないとできないと言います。そして、あるオランダ人の先生の、次のような言葉が印象に残ったそうです。

「僕は、その人が見えるっていうことが好き。誰にもできない、その人だからこそできることが見えるのが好き。だから自分がやりたいこと、ワクワクすることをやりたい。」

その人が見えるということは、ワクワクが見えること。そして、それはクリエイティブであるということにも繋がると山地さんは感じています。では、どうしたらそうあれるのか。楽しめる時間、楽しめる心の余裕、他者との対話の時間、山地さんは、そういったことを自分でつくっていくことこそが大切なのではないかと、オランダでの生活で感じているそうです。

４．参加者の振り返りから

参加者のみなさまからアンケートにいただいた一言を掲載させていただきます。

・対話の重要性や「やり続けること、やり続けられるほど自分がやりたいことを見つけ出す」というお話がとても印象的でした。たくさん勉強させていただきました。教師としても、親としても、1 人の人間としても。ありがとうございました。
・学びがたくさんありました。自校の総合のプランの見直し。子供たちが主体的に学ぶ方法をもっと職場に発信すること。そのために対話する場を設定すること。夏休みに自分なりに良い方法を考えていきたいです。どうもありがとうございました。
・公立校での実践報告に勇気をいただきました。子供たちにとって良いと思えるもの学校全体でやっていければいいなと考えています。自分にできることを少しずつやっていきます。今日はありがとうございました。
・イエナプランのひらかれたコンセプトを体感できたのが 1 番の収穫でした。「イエナプラン」という語を使わずとも、そのスピリットは実践できる!ということを学びました。
・1 日を通して感じたキーワード／対話する、疑問を持つ、チーム仲間を作る、疲弊しない
《気づき》安心する場で話すことと挑戦して話すこと。違う思いの人の集まりの中でチームになっていく過程こそ大事。貴重な 1 日でした。ご準備をありがとうございました。
・ありがとうございました。リフレクションで話した多くの方が、「公立の学校でイエナプランに限らず、新しいことに取り組むのは難しい、どこか他の志の同じ人と作る場にうつりたいと思っていたが、なんとかここ（自分の場所）で対話していきたいと考え方を変わった」とおっしゃっていたのが、すごいなあと思いました。自分も職場でその機会を作ったばかりですが、「続けていくこと」、少しでも前に進むことをやっていきたいと思います。
・全体的に「狂信的にならない」「盲目的にならない」いう姿勢がすばらしいと思った。日本の教育はダメ!とやみくもに否定せず、対話を通して共通認識を築いていく、そのプロセスを大切にしなければならない。
・いろんな実践をされている方、しようとされている方と交流ができ刺激になりました。たくさん情報を得て頭がいっぱいです。ゆっくり整理して、2 学期に備えます。
・どのようにして新しい実践を進めていくのか、自分のやりたい事は何か、もう一度考えてみたいと思える 1 日でした。自分の中の迷いをふっ切る力をもらえました。2 学期に野外体験教室があります。そこでどのような学びを作っていくことができるのか、WO の考え方をもとに考え直してみたいと思いました。遠くから来てよかったです。本当にありがとうございました。
・イエナプラン教育を実践している現場の先生方の生の声が聴けてよかった。良い点だけでなく、シビアな部分やこれからの課題なども含めてお話が聴けたので、これからの自分の教育観にも何か影響を及ぼすことになると思う。新しい教育を組み込むことが大変なことも不可欠ではあるが、今後もっと浸透して、新しいではなく当たり前の教育になっていくことを願うと同時に、そうなるよう貢献したいと思う。

・今日はありがとうございました。報告させていただく機会を得たのも自分としては大きなチャレンジでもあり、次の一歩でもありました。感謝です。「なぜあえて大変なことを続けていくの」という問い。なんでかな?楽しいから?なんで楽しいのかな?う～ん。
・本日はありがとうございました。気にはなっていたイエナプラン教育についてその具体を知ることができワクワクしてきました。公教育の中でやれる、やりたい、やるべきだと思いました。
・イエナプランが何かわからず参加させていただきました。終始温かい雰囲気の研修会でした。今日の学びの中ですぐにでも実践していきたいと思ったのは対話です。「伝わらない」と思わず、相手を尊重しつつ対話をしていきたいと思います。
・イエナプラン、ワールドオリエンテーションを深く考えなおせました。イエナプランを日本に取り入れたらいいなぁと思っていたのですが、イエナプランの理念を日本に取り入れていこうと思い直しました。むしろ、日本のままでも、対話を大事にしてみんなで社会、学校、子供について考えなおすことでも、どんどん日本の教育がより良くなっていくのではないか…とも思えました。とても楽しかったです!ありがとうございました!
・自分が今行っている総合的な学習の時間のやり方は、ワールドオリエンテーションの考え方と似ているところもあり、改善の余地もあると感じました。ありがとうございました。
・「対話」について／私はこれまで「共有」は難しいと考えていた。そして今はチームとして取り組むことがいいと考えている。でも実際は、そう思っていない人もいるし、僕は僕で自分の思う正しさを疑うことも考える必要があって、「対話すること」を課題としているのは自分だけじゃないかもと思った。（自分が対話力を身に付けるなきゃいけないとずっと思っていた。）そこで私は「力を合わせられる力」を身につけるために、それぞれが思う正しさを共有していけるように、コミュニケーションと対話の技術を、自分の立場を生かしておこないたいと思いました。本川先生のおっしゃっていた「助けてもらったという感覚で変わり始めた」というのは解決の糸口に思える。今やっていることは無駄じゃない！
・対話の中で「時間」を意識することを学びました。その人にとっての成果があれば、分かりあえることもあるんだと思いました。チームで仕事をすることを大切にするようにしていきたいです。
・すばらしい教育がより拡がるようにという思いを強く持ちました。本当に信念を持ってやること、それを継続してやること、多くの人たちと対話によってつながることの大切さを教えて頂いたように思います。より深く学んでゆきたいと思いました。ありがとうございました。
・実際のオランダの子供たちの映像が、つつじ小の子どもたちと重なった。少し照れながら発表している様子を見て、安心した。箕面子どもの森学園は、つつじ小よりも密に WO を行っていた。雄勝小では「教務レポート」など、つつじ小にはないリフレクションでチームを作っていた。どれも実践報告は、とても学びがあった。
・本日はありがとうございました。イエナプランの教育や、イエナプランに類似した取り組み事例が聞けて勉強になりました。参加者同士の対話もできて、大変刺激になりました。現場で取り入れるために、大事なことがわかったような気がします。
・イエナプラン教育（娘）について。私はこれまで自分の子どもはまわりのみんなと同じ地区の普通の学校に通ってほしいと考えていた。そして今は自立した考えを持ち、社会に出たときに生かせる力を身につけられる学校教育目標を持った学校に通ってほしいと考えている。そこで私は帰って嫁に相談をする。

・今日は有難うございました。こういう学びの場に来るのは本当に久しぶりで、皆さんの話を聞いて、現在の自分の立ち位置やあり方を考える良い機会になりました。気づきがいっぱいでした。とても楽しい会でした。運営のみなさん大変お疲れ様でした。
・学校現場はチームで行っていく。そのためには対話って本当に大切なものだと知りました。学校が変わらないと教室が変わらない。そんなことを思った講座でした。いきなりは変えられないし、大きくも変えられない。でも少しずつ、継続して広げていくしかないですね。本日はありがとうございました。
・校種を問わず、様々な方面からの話を聞くことができて大変有意義でした。ありがとうございました。
・イエナプランの異年齢の学びを、特別支援教育で生かせないかと参加させていただきました。異年齢だからこそできること、強みを感じた１日でした。これから対話を大切にして、仲間を増やしていきたいと思います。
・先生方の実践報告はとても勉強になりました。活字で読むだけでは、自分にもできるのか…？と不安でしたが、皆様も試行錯誤があって今があることが伝わってきて、勇気が出ました。こんな実践に直に触れられる子どもたちは幸せですね!!協会の皆様ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。
・午前中だけだったが、大変参考になった。「対話」と言うワードが出てきたが、若手から対話していくことが難しい。上の意識が変わらないと、対話してくれない（自分の考えを押し付けるだけ）今後は若手のそのような悩みを解消してほしい。
・第３回の全国大会を楽しみにしています。
・ありがとうございました。リフレクションの時間が長いのが、印象的でした。
・多くの刺激と学びと活力をいただきました。ありがとうございました。
・いろいろなあつい思いが聞けてよかったです。ただ、学校をどのように変えていったかと言う話が多く、それはそれで大切ですが、ワールドオリエンテーションの実践をもう少し詳しく知りたかった。
・イエナプランを知る機会になったと共に、学校教育の現場を知る機会になりました(私は会社員で先生と話をすることがほとんどありません)。その中で感じた事は２つで「ショックだな」と「同じだな」です。素人でもすぐに良さにピンとくる施設や考えに、ネガティブな反応が多い現場。教育方法よりも、周囲の巻き込みに苦労されている様子。残念に思いショックを受けました。また、夢を何度も語り、最終目標を共有し、対話によるチームビルディングが大切という点は会社のプロジェクトの進め方と同じだなと共感するとともに、ノウハウを共有し合えたらいいなと思いました。イエナプランは学び始めたばかりなので、今日やっぱり興味が出てきたし、もっと学んでいこうと思います。教員でないので居心地が悪かったらどうしようとドキドキしていましたが、いろんな立場の人がいらっしゃって、楽しく参加できてよかったです。

５．総会資料

（１）２０１６年度活動報告

２０１６年
・6 月 13 日：【リヒテルズ直子氏によるワークショップ＠福岡】
～アクティブラーニングの本質を問う～
・7 月 25 日： Vol.30 ニュースレター発行
・7 月 31 日：第１回　日本イエナプラン教育協会全国大会
・8 月 21 日～26 日：オランダ夏季研修
・9 月末：全国大会報告書発行

２０１７年
・1 月 22 日：【リヒテルズ直子氏×苫野一徳氏とイチから考える公教育】
・1 月 25 日：Vol.31 ニュースレター発行
・1 月 28 日：イエナカフェ＠ナゴヤ【リヒテルズ直子氏講演会　】
～オランダのイエナプラン教育とヨーロッパの教育事情～
・3 月 26 日～31 日：オランダ春季研修
・6 月 15 日：イエナカフェ＠浦安【対談　リヒテルズ直子✖井手英策】
～これからの民主主義～

2016 年度は、第 1 回全国大会を開催することができたことが大きな成果でした。これにともない、各支部の活動が大変活発になり、1～2 ヶ月毎に集まって学習会を続ける活動が定着してきました。大きなイベントだけでなく、こうした地道な活動こそが、イエナプランのコンセプトを自分たちのものにしていく大きな力になると思えます。

また、うれしいことに、様々な場所でイエナプラン教育に関する学習を始めたり、深めたりすることに協力をすることが多くなってきています。
・滋賀県総合教育センター学ぶ力向上プロジェクト研究への協力
・東京都大島町立つつじ小学校校内研究への協力
・佐久穂町イエナプランスクール設立準備財団への協力
・松本支部立ち上げ支援
・その他、幼稚園、小学校、ＮＰＯ等でのイエナプランに関する講演や研修の実施
などです。
さらに 2017 年度は、念願だった『オランダ・イエナプラン教育専門教員養成研修』が実施されます。9 月から 12 月までの 3 ヶ月間、11 人の研修生がオランダに行くことになりました。
そして、イエナプラン教育の教科書の電子書籍の発売も間近です。

会員の皆さま、どうぞこれからも一緒に学び、日本の教育が少しずつでも良いものになっていくよう、力を合わせていきましょう。
御協力、ありがとうございました。

（２）　２０１６年度会計報告

１．　重要な会計方針

（１）　消費税等の会計処理……　税込方式

２．　事業別損益の状況

（単位：円）

科目		第1回日本イエナプラン教育　全国大会	リヒテルズ直子氏×苫野一徳氏とイチから考える公教育	事業部門計	管理部門	合計
Ⅰ　経常収益						
１．	会費収入	0	0	0	385, 000	385, 000
２．	受取参加費	356, 000	336, 000	692, 000	0	692, 000
３．	雑収益（教材等）	0	0	0	280, 920	280, 920
４．	事業収益	0	0	0	0	0
	経常収益計	356, 000	336, 000	692, 000	665, 920	1, 357, 920
Ⅱ　経常費用						
（１）	人件費	0	0	0	0	0
	給料手当	0	0	0	0	0
	退職給付費用	0	0	0	0	0
	福利厚生費	0	0	0	0	0
	人件費計	0	0	0	0	0
（２）	その他経費					
	施設費	118, 140	0	118, 140	0	118, 140
	旅費交通費	218, 530	128, 050	346, 580	0	346, 580
	諸謝金	0	100, 000	100, 000	0	100, 000
	印刷製本費	667	0	667	49, 683	50, 350
	会議費	9, 645	10, 546	20, 191	0	20, 191
	租税公課	0	0	0	88, 800	88, 800
	交際費	0	31, 700	31, 700	0	31, 700
	雑費	1, 850	2, 700	4, 550	272, 374	276, 924
	振込手数料	864	0	864	324	1, 188
	その他経費計	349, 696	272, 996	621, 828	411, 181	1, 033, 009
	経常費用計	6, 304	63, 004	70, 172	254, 739	324, 911
	当期経常増減額	6, 304	63, 004	70, 172	254, 739	324, 911
	前年度繰越金					681, 226
	次年度繰越金					1, 006, 137

（３）２０１７年度活動予定

２０１７年
・7 月 25 日：Vol.32 ニュースレター発行
・7 月 29 日：第 2 回　日本イエナプラン教育協会全国大会
・8 月 20 日～25 日：オランダ夏季研修
・9 月末：全国大会報告書発行
・9 月 17 日～12 月 8 日：オランダ・イエナプラン教育専門教員養成研修
２０１８年
・1 月 25 日：Vol.33 ニュースレター発行
・3 月：オランダ春季研修

日本イエナプラン教育協会経緯
＊2007 年「日本イエナプラン教育勉強会」発足
＊2010 年「日本イエナプラン教育協会」設立
＊2015 年 3 月 25 日「一般社団法人日本イエナプラン教育協会」設立

各支部のご案内

・北海道（帯広）支部	hokkaido-obh@japanjenaplan.org
・埼玉　支部	saitama@japanjenaplan.org
・千葉（浦安）支部	chiba@japanjenaplan.org
・東京（江東）支部	chiba@japanjenaplan.org
・東京（大田）支部	chiba@japanjenaplan.org
・東京（世田谷）支部	info@japanjenaplan.org
・長野（松本・安曇野）支部	matsumoto@japanjenaplan.org
・長野（南信）支部	nagano@japanjenaplan.org
・愛知（名古屋）支部	nagoya@japanjenaplan.org
・関西（大阪）支部	kansai@japanjenaplan.org
・福岡　支部	fukuoka@japanjenaplan.org

《 協 会 役 員 》

代表理事	久保 礼子
理　事	田村 悠子
	中川 綾
	幕内 那菜
事務局	浅野 聡子
	宅明 健太
	服部 秀子
	原田 友美
監　事	谷藤 葉子
特別顧問	リヒテルズ直子

2017 年 7 月当時